

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2025年度	開講キャンパス		宮崎キャンパス		開設学科		管理栄養学科		
科目名称	健康管理概論						授業形態		講義	
科目コード	304600	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	木村 志緒								ICT活 用	○
授業概要	健康管理概論は、管理栄養士国家試験における9分野のうち「社会・環境と健康」分野に位置付けられている。 本授業では、公衆衛生学に引き続き、循環器疾患の疫学、生活習慣と健康、学校保健、国際保健などについて国試過去問を題材として学習する。 また公衆衛生学で学習した内容について模試過去問を題材として反復学習する。									
関連する科目	履修前に、公衆衛生学を受講しておくことが望ましい。 履修後に、保健医療福祉システム論を受講することが望ましい。									
授業の進め方 と方法	第1～9回の進め方 (1)授業前半：教員による国試過去問解説を聞く。 (2)授業中盤：持参したPCでまとめ資料を作成する。 (3)授業終盤：教科書等を見ながら翌週分の問題を解き、回答番号を周囲の人と確認しあったのち、提出する（ユニバのテスト）。 第10～13回の進め方 (1)授業前半：教員による国試過去問解説を聞く。 (2)授業後半：教科書等を見ながら翌週分の問題を解き、回答番号を周囲の人と確認しあったのち、提出する（ユニバのテスト）。 第14回の進め方									
授業計画 【第1回】	オリエンテーション 授業の流れ、各回のテーマ、予習復習の方法、評価方法等について説明を聞く。 翌週に向けて、問題を解き、回答番号を提出する（ユニバのテスト）。									
授業計画 【第2回】	循環器疾患の疫学について（国試過去問題8問） 心疾患や脳血管疾患率の年齢調整死亡率の推移等を理解する また健康の定義等について模試問題を用いて復習する。									
授業計画 【第3回】	身体活動の必要性について（国試過去問題7問） 厚生労働省が策定した「健康づくりのための身体活動指針」の年代別の違い等を理解する。 また、公害・放射線・廃棄物について模試問題を用いて復習する。									
授業計画 【第4回】	わが国の喫煙対策について（国試過去問題9問） 喫煙率の推移や受動喫煙対策等について理解する。 また、環境に関する条約や大気汚染について模試問題を用いて復習する。									
授業計画 【第5回】	わが国における飲酒対策について（国試過去問題5問） 飲酒率の推移や未成年の飲酒の防止策等について理解する。 また、上下水道や熱中症について模試問題を用いて復習する。									
授業計画 【第6回】	睡眠・休養の重要性について（国試過去問題6問） 厚生労働省が策定した「睡眠指針」や「休養指針」等について理解する。 また、保健統計について模試問題を用いて復習する。									
授業計画 【第7回】	歯科保健行動について（国試過去問題7問） わが国で実施されている「8020」運動等について理解する。 また、がんについて模試問題を用いて復習する。									
授業計画 【第8回】	学校における保健対策について（国試過去問題9問） 学校感染症における対応や、健康診断の項目等について理解する。 また、感染症法の分類について模試問題を用いて復習する。									
授業計画 【第9回】	国際保健について（国試過去問題12問） WHO、ODA、JICA、FAO、WFP等の役割を区別できるようになる。									
授業計画 【第10回】	下記のテーマについて模試問題を用いて復習する。 循環器疾患の疫学・・・粗死亡率の推移など 身体活動・・・運動習慣者の推移など 地域保健・・・保健所の業務として保健師に関する事項など									

授業計画 【第11回】	下記のテーマについて模試問題を用いて復習する。 喫煙・・・禁煙治療の補助薬など 飲酒・・・フラッシング反応など 母子保健・・・低出生体重児など
授業計画 【第12回】	下記のテーマについて模試問題を用いて復習する。 睡眠・・・睡眠指針における年代別推奨事項など 歯科・・・歯周病のリスクなど 産業保健・・・労働災害補償保険など
授業計画 【第13回】	下記のテーマについて模試問題を用いて復習する。 国際保健・・・WHO、ODA、JICA、FAO、WFP等の役割の区別など 疫学・・・疫学手法の区別など
授業計画 【第14回】	定期試験に向けたまとめ① (出題形式に慣れ、自身の理解度を把握する)
授業計画 【第15回】	定期試験に向けたまとめ② (教員解説を聞き、理解が不十分な点を補強する)
授業の到達目標	①国家試験に必要な基礎的な知識および類似問題を解く際に活用できる力を身に付ける【知識・理解を応用し活用する能力】 ②課題提出の期限を守るようスケジュール管理能力を身に付ける【自らを律して行動できる力】 ③周囲の人と協力して正答を見出したり、他者の苦手なところをサポートしたりといった協調・協働力を身に付ける【協調・協働能力】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	<学習時間：60分程度> 教科書等を見ながら翌週分の問題を解き、回答番号を周囲の人と確認しあったのち、提出する（ユニバのテスト）
授業時間外学習【復習】	<学習時間：60分程度> 定期試験に向けて、学習した知識を長期的に維持するための工夫をしながら振り返る。
課題に対する フィードバック	・過去問の解説を授業内に行う。 ・まとめ資料の作成例を提出期限後に教室に掲示する。 ・質問等には授業時間外も含め対応する。
評価方法・基準	下記項目の割合に基づいて、総合的・相対的に評価する 1) 提出物・・・12%（12回分） 2) 定期試験・・・87% (1) 試験範囲：循環器、身体活動、喫煙、飲酒、睡眠、歯科、学校保健、国際保健、健康の定義等、公害、放射線、廃棄物、条約、大気、水道、熱中症、保健統計、がん、感染症、医療制度、地域保健、母子保健、産業保健、高齢者保健、疫学 (多いと感じる人もいるかもしれませんが、国試範囲の8～10%です。 2年次に身につけておくと、4年次に『思い出す程度のレベル』の学習量で済むので他分野の国試勉強、就活、卒業研究などに多くの時間を割くことができます!!) (2) 試験問題数：30問 (3) 試験問題形式：国試と同様（番号選択式）＋部分点として（ ）埋めと語句選択問題
テキスト	カレント 改訂 社会・環境と健康 公衆衛生学（建帛社）ISBN978-4-7679-0756-7
参考書	特に指定しない
備考	